

令和 7 年度 第6回 運営推進会議報告

認知症高齢者グループホーム無憂苑

1.日程 令和8年2月26日(木)11 時 00 分～12時00分

2.開催場所 無憂苑会議室

3.参加者

地域包括支援センター長:野内武氏、東町町内会:近澤徹司氏
北町町内会:佐々木裕氏、利用者ご家族代表:堀野美也子氏
比布消防署副署長:佐藤正輝氏
山川総合施設長、森谷

計7名

協議事項に入る前に開催にあたっての挨拶を山川総合施設長にさせていただく。

4.協議事項

(1)運営状況

毎月经営会議で使用している月次管理表を見ていただきながら、まずは稼働率などについてご説明させていただく。2 月の稼働率に関しては残り数日ということもあり見込みで数字を出し、記載させていただいた。おかげさまで、今年度は感染症が一度も出ておらず、とても穏やかに生活できている。ただ、長期入院や退居などで12月・1月・2月の数字は落ちているという状況。

・近澤氏より

「感染症がまん延しなかった要因は何かあるのでしょうか？」とのご質問がある。

前年度は2度コロナが出てしまったこともあり、今いる職員のほとんどが経験したことで、予防の徹底をしてくれていること、また、令和7年6月に厚生病院の出張研修で感染症研修を受けたことで、より意識を高めることが出来ているのか。消毒や手洗いうがいなどは以前とかわらないと思うが、研修はより実践的なものになっていっていることからそれらの効果なのかといったことが考えられる。

(2)ご利用者の状況

まず、退所された方について。11 月にお一人入院され、それから退院の見込みが立たず、2 か月が経過。今後も退院は難しいとの医師の判断があり、1 月 19 日付で退所となった。

新規入居者について。入居申込をされている方は 5 名いらっしゃるが、今すぐの入居は望まないという方が多く、すぐに入居ということには至らなかったが、2 月 20 日にお一人入居され、ようやく満床となる。

入院者について。2 月 16 日(月)に体調不良を訴えられ、ぴっぷクリニックを受診したところ虫垂炎の疑いがあるとのことで、紹介状をいただき森山病院の外科を受診。腹膜炎を起こしかけており、本日中に手術をした方が良くとのドクターの見立てにご家族も同意され、そのまま入院となる。かなり炎症が進んでいたようで、その日のうちに手術をすることが出来たが、切ると膿が飛び出てしまうほどだったとのこと。その日に手術も出来、入院は1週間程度と聞いていたが、現在(2月26日)も退院の話は聞かれないため、来週以降になることが予想される。

・近澤氏より

「虫垂炎はそれほど入院が長引くものなのか？」とのお話がある。

入院された方が不調を訴えられた 2 月 16 日の朝は食事もとらずお部屋で横になっているも病院には行かないと言われ、午後まで様子をみるかと話していたところ、ご本人から「やっぱり病院に行く」と言ってくださり、早い時間にぴっぴクリニックを受診できた。それがなければ手遅れになっていた可能性もあるため、ご本人から病院に行くと言ってくださり本当に良かったと感じている。ただ、森山病院についてから「もうお腹は痛くないよ」「いつ帰るの？」など話されることもあり、激痛という様子ではなかったが、ドクターは腹膜炎をおこしかけていて、それ(痛くないというの)は考えられないとのこと。恐らく、認知症になることで痛みを感じる部分も鈍ってしまうのか、とも考えられたが、施設長も過去に虫垂炎を患った経験があり、激痛というよりは重い痛みだったとのこともあり、年齢を重ねるごとに痛みの出方が違うことが予想された(若いほど痛みを強く感じる可能性)。恐らく、手術前に危険な状態になっていたこともあり、通常の虫垂炎よりも大事をとっていることが予想される。先週金曜日に病院に問い合わせをした際には家族でないため詳しいことはお話いただけなかったが「お元気ですよ、点滴など抜いてしまうので拘束されています」とだけ教えていただいた。点滴を抜いてしまうということは点滴が必要な状態ということなので、金曜日の時点ではまだ治療が必要な状態だったということまでしかわかっていない。ご家族にもまだ何も連絡が入っていないようだった。

(3)活動、行事報告

2月発行の広報誌をお配りし、12月からの無憂苑の様子についてお伝えさせていただく。

・忘年会:12月24日に開催。午前中クリスマスケーキのデコレーションを行い、昼食はクリスマスメニュー、午後からお楽しみ会としてみんなでゲーム、プレゼント、作ったケーキを食べる。

・新年会:1月に開催。お寿司職人さんにきていただき、お寿司の食べ放題。午後から鏡開き、感謝状贈呈、みんなでお汁粉をたべる。お粥の方もお寿司を普通に食べることが出来ていた。

・お正月:職員が手作りの鳥居や賽銭箱を作り、初詣を苑内ですることができた。お賽銭やおみくじを職員が用意してくれて、いつもよりもお正月気分を味わっていただけたのではないかな。

・雪だるまコンクール:昨年はコロナもあり、職員だけで雪像を作成し、大賞を受賞できた。今年は利用者様も一緒に雪像づくりに参加していただくことができた。賞には入らなかったが、みんなで作成できたことはとても良かったと考えている。

委員の皆様からのご意見

・行事が充実していて、楽しそう。自分が入居しても良いと感じるほど。
というありがたいお言葉をいただく。

※その他の活動として、ご利用者のやりたいことを出来るだけ実践していけるよう個別で何かできないかを考えている。特に男性のご利用者はあまり希望を話されず、何をしたいのか、何が好きだったのかなど更

なるリサーチが必要と感じている。

委員の皆様からのご意見として

- ・男性は本当に好きなことは仕事が忙しくてもやるものだと思う。
- ・子供の頃からずっと続けていることなど昔の話を聞き出していくことが重要。
- ・今の生活の中で表情には出ていなくても実際は楽しいと感じていることもあるのではないかな。
- ・仕事が趣味という男性も多い。
- ・今入居されている方々の時代は貧しい時代だったし、我慢強い。我慢が美德とされる風習もあったことから、それが染みついているので本当の想いを引き出していくことはなかなか難しいかもしれない。

などのご意見がいただけた。

まずは幼少期からの聞き取りが足りていないため、ご家族の協力も得ながら進めていきたいと思う。

・釣りが好きな男性利用者について話していると、生け簀を用意してくれて釣りを楽しむところがあると教えていただく。山まで連れて行くのはリスクが高いと感じていたが、そのような方法であればより安全に釣りを楽しむことができる。

最後は委員のみなさまの趣味についてのお話も聞かせていただくなど、ざつくばらんにお話をしていただき、今年度最後の運営推進委員会は終了となる。

委員の任期は2年のため、来年度も全員継続していただけることを確認。

(4)その他

次回、令和8年度 第1回運営推進会

日時:4月23日(木)11時～

場所:無憂苑 B 棟会議室